

－私立大学環境保全協議会第7回海外研修報告－

『TEI (Thailand Environment Institute Bangkok, Thailand)』

千葉工業大学工学部教授 尾上 薫
産業医科大学産業保健学部教授 保利 一

1. はじめに

2007年8月24日(金)の午前に、タイ環境研究所(Thailand Environment Institute, 以下TEI)を訪問した。TEIは1993年に設立された非営利の財団法人であり、ラオス、カンボジア、ベトナム、中国などの近隣諸国と連携した環境保全プロジェクトの促進、ならびにタイ国内での環境情報の取得などの業務を行っている。TEIは政府機関ではないが、設立の発起人(4名)としてタイ科学技術環境省の元大臣、天然資源環境省の現大臣、元参議院議員らが参画しており、政府の環境政策と密接に関わりがあると推察される。

当日は、TEIのChaiyod Bunyagidj副所長から、タイ国内外の環境問題の現状と課題、TEIの業務内容について説明・紹介いただいた後、TEIの今後の取り組みについて活発な討論が行われ、予定の2時間があつという間に経過した。質疑応答では、タイの環境政策の現状と課題に関する質問も多く出されたので、これらを含め以下に報告する。

2. タイのエネルギー・環境政策の現状と課題

2.1 エネルギー政策

タイは天然ガス、石炭を使用する火力発電がエネルギー供給の主流であり、水力発電が占める割合は少ない。現状ではラオスの2つのダムから電力を受けており、次世代のエネルギー源として原子力発電を計画中である。車はLNGなどの使用を推奨している。

2.2 バンコクの環境政策

家庭ゴミは埋め立て処理が主であり、積み替えの拠点がバンコク市内に3箇所ある。家庭ゴミは市、区が集めて処理しているが、最近では有害廃棄物の処理問題が生じている。今後は家庭内でのゴミの仕分けをさらに促進するとともに、5年後に家庭ゴミの30%削減を計画している。



レクチャー風景

3. TEIの活動内容

3.1 組織および運営資金

2006年5月現在のスタッフ数は109名であり、4割以上の方が博士・修士の学位を有している。財団の運営資金の内訳は、海外からの寄付が50%、国からの資金援助が40%を占めており、国内企業の寄付は10%程度である。賛助企業として、日本の現地法人もリストアップされている。海外からの資金をいかに獲得するかが今後の課題として挙げられる。



研究所玄関前で

3.2 政策テーマ

温暖化・豪雨などの気候変化への対策，物質循環を目指した持続的社会的構築，環境管理の指導，および環境教育の啓蒙を4本の柱としている。さらに省エネルギー対策，環境指標の設定，森林の枯渇対策，化学物質の適正管理などについても積極的に取り組んでいる。これらのテーマについて，ユネスコとの連携，近隣諸国または日本との共同プロジェクト研究を展開している。特に，国連との関係はTEIが中心となり活動を行っているが，頼まれれば動くという体制は否めない感があるとのことである。

3.3 Green Label Scheme

資源の有効利用，環境汚染防止を目的とし，民間企業がTBCSD (Thailand Business Council for Sustainable Development,) という組織を作っているのが特筆される。TEIはTBCSD，工業省およびタイ工業規格局 (Thai Industrial Standards Institute, TISI) と連携してグリーンラベルプロジェクトを推進している。グリーンラベルはいわば企業の体力をはかるものであるが，カテゴリーの分類，グリーンラベルを与える条件と認定，消費ライフサイクルの見直しを常に図っている。ラベルの使用は3年間である。機械洗浄，スプレー，廃プラスチック，紙，コピー機，洗剤，織物，断熱材などの処理やリサイクルが最近の対象テーマである。2006年にTBCSDは，プロジェクトの推進に貢献した玩具，ペン，塗料の3メーカーを表彰している。さらに，TBCSDおよびTEIは，Global Ecolabeling Networkを通じて国際協力にも貢献している。しかし現状ではラベルの浸透性が少なく，グリーンラベルの認定が企業にとってどのような経済効果をもたらすかが数字で明確に表れていないのが課題といえる。

4. おわりに

滞在したホテル周辺は，地下鉄工事のため早朝から車の大渋滞が生じており，騒音，河川の汚濁，大気環境対策は国内の重要な課題であると感じた。バイパスの設置によりバンコクの大気環境は改善され，生活の質も向上しているとのことであるが，環境に関する国民の認識はまだ低いようである。

「タイ国民の環境に関するオリジンは何ですか」との問いに，「タイは仏教徒が多数を占める国です。また，農業で生計を立てている人が多く，河川や海など日常生活で水と大きな関わりを持っている国でもあります。

すなわち，自然と一緒に生活し，文化には“神”がいるという国民性が，昔から環境を保全する意識につながっていると思います。」というBunyagidj副所長の言葉が今でも印象に残っている。



トゥクトゥク(三輪タクシー)